

ダイヤ工業株式会社

縫製技術をベースに、通販体制、商品開発力を武器に医療・福祉用「次世代運動機器サポーターシステム」の事業化に取り組む第二創業型企业。50年以上の歴史を持ちながら平均年齢28.5歳という「ダイヤ工業株式会社」について、代表取締役の松尾 正男氏にお話を伺いました。



人間が人間らしく人生 「次世代運動機

会社のおいたち、なぜ入居したのか

縫製技術を活かして医療・福祉の分野へ

医療・福祉分野へは、どういう経緯で参入されたのでしょうか。

先代社長が1963年に設立した当時は、い草のサンダルをハワイに輸出していました。社名であるダイヤ工業株式会社の「ダイヤ」はハワイのダイヤモンドヘッドに由来します。

その後、皮革製品のスリッパやバッグ等の袋物など縫製技術をベースに様々な製品の下請けをやってきましたが、取引先企業の景況に左右される厳しい環境を経験してきましたので、自社製品の割合を常に増やす努力をしてきました。それもあって先代の時から新しい風を取り込む風土が当社にはあったのだと思います。

1970年頃、岡山県内の大手医療機器・福祉機器メーカーからリハビリ用の牽引器の装具製造の依頼があったことをきっかけに医療・福祉用サポートの分野に携わることになりました。コルセット等を利用者の使いやすいように加工する縫製技術をベースに、現在の取扱製品3000アイテムのうち、自社製品は約1,000アイテムを占めるまでになりました。

病院は敷居が高く、ドラッグストアは返品率が高いことから、当社は「整骨院」をメインの市場としており全国4万軒の6

割とお取引があります。保険摘要でないからこそ高価でも良いものを作ることができましたし、宅急便等の物流の発達やコールセンター機能を活かした短納期かつ「心が通う通販」が当社の強みになりました。

インキュベータ入居を考えたきっかけは何でしたか？

私が社長就任した頃からの20年来のお付き合いがあったIM(インキュベーションマネジャー)から岡山大インキュベータのオープンに合わせてお声掛けがあったからです。ちょうど、事業基盤が安定し次の新たな商品開発をするための拠点の必要がありましたので、この施設に入居しました。

入居——その後の成長、展開

次世代運動機器の開発に成功し、 メディアでも取り上げられる機会が増えた

新事業である次世代運動機器の開発が順調のようですが…

当社の使命は「人間が人間らしく、人間の尊厳を維持しながら、人生を全うする」ことを応援することだという考えに基づき、岡山大学工学部の則次教授と空気圧を利用した人工筋肉に関する共同研究を行っています。そこから生まれた「次世代運動機器サポーターシステム」の一つとして、2009年

製品紹介



サポーター進化論 DARWIN

当社がこれまでに培ったサポーターのノウハウと機能を組み込んだ集大成とも言える全身カバータイプのサポーター。疲労軽減・バランス感覚の向上・姿勢矯正・疼痛緩和などの効果が期待できる。

人工筋を応用したパワーアシストウェアの 試作開発と実用化



当社のパワーアシストウェアは、従来の機械的なロボットスーツとは異なり、サポーター製造で培った縫製技術等により小型で軽量、衣類のようなウェアラブルさを実現。岡山市介護機器貸与モデル事業の対象商品に選定され、2014年1月から2015年3月までは1割負担の月額1,700円レンタル提供される。

会社概要

入居BI 岡山大インキュベータ

代表取締役 松尾 正男

所在地 本社：岡山県岡山市南区大福1253番地
開発拠点：岡山県岡山市北区津島中1-1-1
岡山大インキュベータ101号室

事業概要 コルセット、人工筋によるサポーターなど
医療用品の開発及び製造・販売

URL <https://www.daiyak.co.jp/>



松尾 正男 社長

- 1963年 ● タイヤゴム工業(株)設立
- 1965年 ● タイヤ工業(株)名称変更
- 1979年 ● 自社開発の腰痛コルセットの製造販売開始
- 1990年 ● 医薬品販売許可取得
- 1992年 ● 新社屋落成
- 2000年 ● 介護用品「クイックターン」がグッドデザイン賞受賞
- 2002年 ● ISO9001取得
- 2003年 ● CSセンター落成
- 2008年 ● 中国ニュービジネス大賞特別賞受賞
- 2009年 ● 岡山大インキュベータ入居、筋肉スーツ「DARWIN」発売
専門家継続派遣事業・経営実務支援事業を活用
- 2010年 ● 販路開拓コーディネート事業活用／中小企業総合展出展
- 2011年 ● パワーアシストグローブ発売
戦略的CIO育成支援事業活用
- 2012年 ● 海外展開F/S調査活用
- 2014年 ● 岡山市介護機器貸与モデル事業認定

を全うすることを可能にする 器サポータイングシステム」

には「筋肉スーツダーウィン」、2011年には「パワーアシストグローブ」の開発、商品化してきました。新商品開発にあたって、中小機構の専門家継続派遣等を活用しマーケティングや事業拡大に対応する財務・管理会計の体制強化を行ってきました。さらに、アジア特にタイへの展開を考えておりF/S調査事業を活用する等して海外展開を含めた経営計画の基に開発を進めてきました。

インキュベータに入居したことは どのようにプラスになったのでしょうか。

ここに入居して開発は飛躍的に進みました。キャンパス内の立地により大学との連携も非常に活発になりましたが、一番良かったことはIMにより適した情報を得られるということです。開発に関わる助成金情報はもちろん、先に話したような新事業開発に必要な経営体制のサポートも受けることができます。メディアに取り上げていただける機会も増えましたし、情報を発信することで更に情報が集まるようになりました。

そして、これから…／今後の課題

次の50年、メイド・イン・ジャパンの 次世代運動機器を全世界に

御社の今後の展望をお聞かせください。

次の50年も世の中になくしてはならない企業でありたい。メイド・イン・ジャパンの次世代運動機器を世界市場に展開したいというビジョンを描いています。筋肉スーツ「ダーウィン」の医療機器認定や岡山大学歯学部と共同研究しているリン酸化ブルランを活用したインプラントの事業化を目指しています。そのために薬事申請に取り組みます。

当社の社員の平均年齢は28.5歳ですが、魅力的な企業は社員のモチベーションが高い企業であると考えています。私

は、そのための環境を整備することが仕事であると考えています。2015年7月の新社屋建設もその一環です。ショールームやアンテナショップを設けて情報発信すると同時に、お客様の声を直接聴く機会を増やそうと考えています。そうすることで、周囲の見る目が変わり、社員の意識も変わると期待しています。



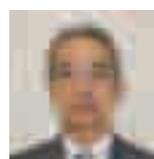
2015年完成予定の新社屋パース

BI 紹介

岡山大インキュベータ

岡山大インキュベータは、地域の大学・研究機関が保有する研究シーズを活用し、地元企業との連携により、新しいビジネスの創出・成長・発展を支援します。特に、①地元企業と大学研究者のマッチング、②研究開発助成金の獲得、③中小機構の持つ支援制度の活用を力を入れています。

〒700-8530
岡山県岡山市北区津島中1-1-1
Tel.086-214-5711
Fax.086-214-5712



岡山大インキュベータ
チーフIM 鈴木 幸次



同社の強みは経営トップから現場の従業員まで進取の気風に溢れていることです。このDNAが岡山大インキュベータにおける「筋肉スーツDAWIN」「パワーアシストグローブ」の製品化に結びついています。